2024 年 11 月 25 日発行

Newsletter

No. 2 2024

一般社団法人　日本川崎病学会　Japanese Society of Kawasaki Disease

発行

一般社団法人日本川崎病学会

日本川崎病学会事務局

〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4−1−22

日本赤十字社医療センター

小児科医局内

広報委員

Newsletter 係

高月　晋一
池田　和幸
益田　博司
福田　清香
星野　真介

TABLE AND CONTENTS

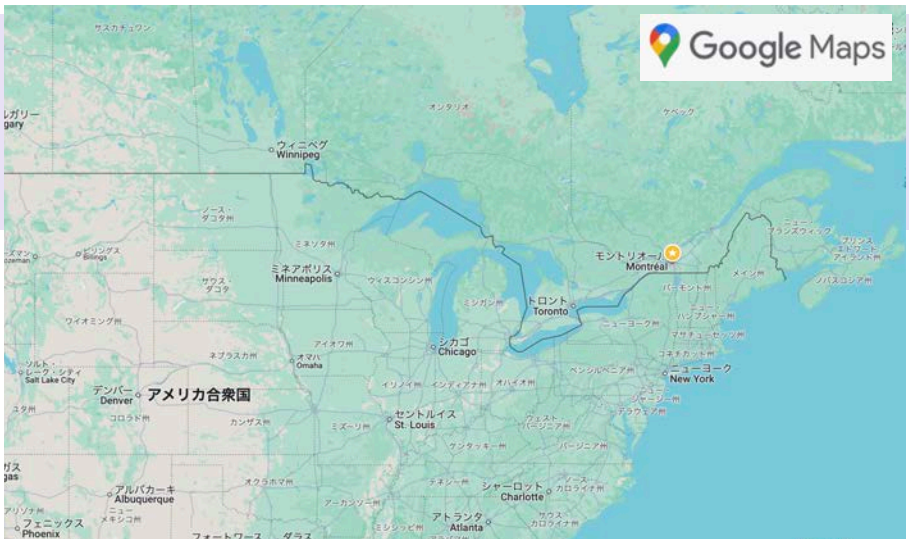
第 14 回国際川崎病学会のご報告 …… 1
第 44 回日本川崎病学会のご報告 …… 7
編集後記 …… 15

14th International Kawasaki Disease Symposium (IKDS)

August 26th – 29th, 2024 | Montreal, Canada | Hotel Bonaventure

ikds.org

第 14 回を迎えた国際川崎病学会（IKDS）は、前回 2021 年の IKDS が COVID-19 のため 完全 Web 学会でしたが、久しぶりの対面形式で行われました。

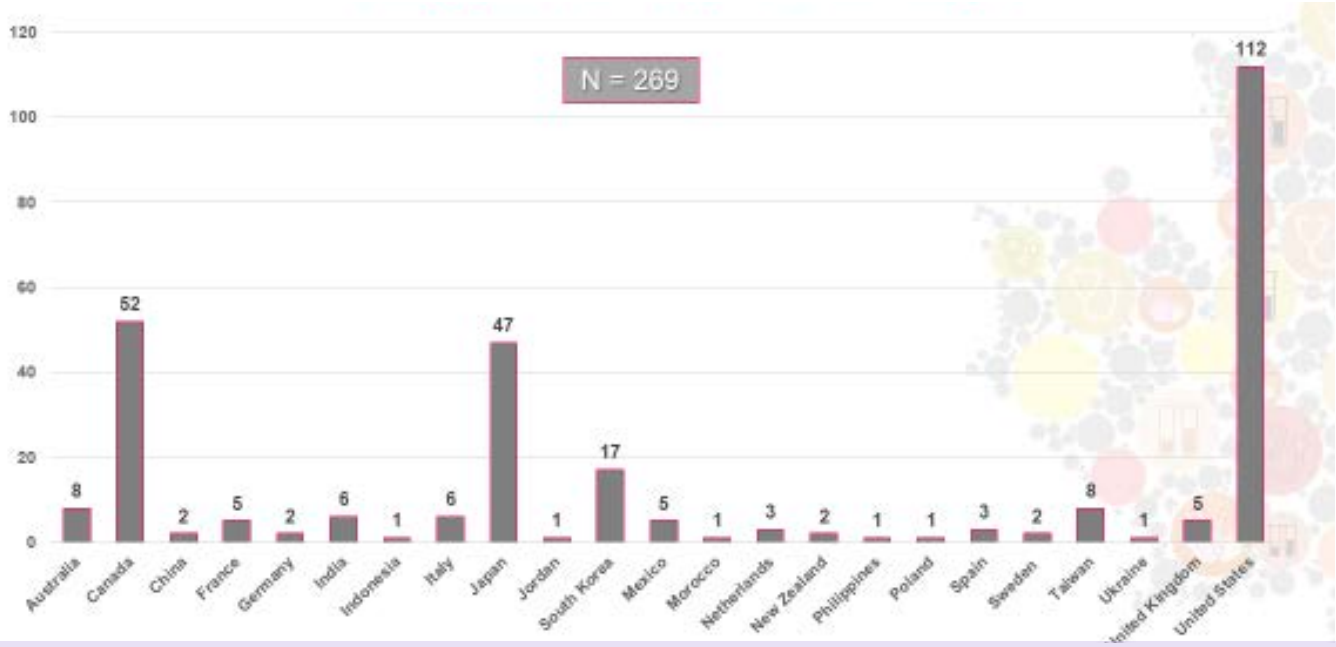


今回は 2024 年 8 月 26 日～29 日の期間で、カナダのモントリオール（ケベック州）にて開催されました。モントリオールは“北米のパリ”とも呼ばれ、公用語はフランス語です。

日本（成田空港）からの直行便はエア・カナダのみで、12 時間程度要します。

今回の会長は Nagib Dahdah 先生（Universite de Montreal）と、Adriana Tremoulet 先生（University of California, San Diego）がお務めになりました。

以下のスライド：Dr Nagib Dahdah よりご提供



今回の IKDS の参加人数は 269 名であり、最も多かったのは米国からの参加者で 112 名、次にカナダ、日本、韓国の順に多く参加されておりました。日本からは川崎病の子どもを持つ親の会の参加者を含めた 47 名が参加されました。

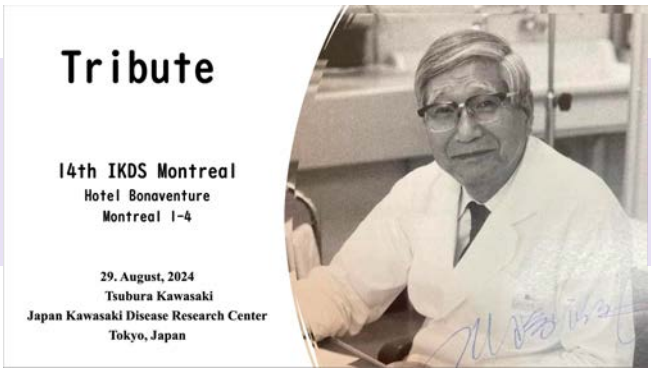
学会会場は写真のような円卓を囲むスタイルで行われました。同時通訳もあり、言葉の壁はなく非常に和やかな雰囲気でした。

本学会では Take Home Message の時間が設けられ、重要なテーマについてまとめた内容の解説がなされました。

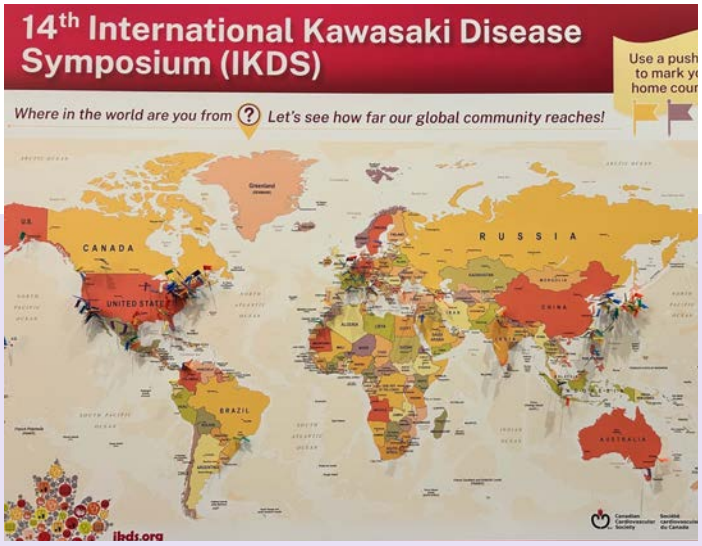
（写真：2 日目の様子）

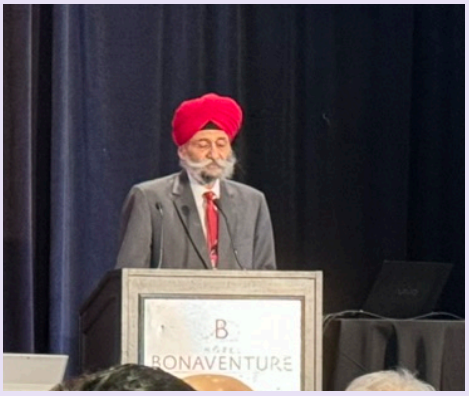
学会最終日には、川崎先生の御息女である川崎つぶら様から、「Memorial for Sensei T. Kawasaki」と銘打ったご講演もありました。ご家族から見た父親・家庭人としての川崎富作先生を紹介された講演で、その医療者としての慧眼だけでなく、人間的な素晴らしさがあったことがわかる内容であり、自然と standing ovation が起こりました。

A playback in history: Memorial for Sensei T. Kawasaki



これまでは東アジア、北米といった患者数の多い地域からの参加が多かったのですが、近年はインドや中東でも川崎病が注目されており、多数の地域からの参加者がありました。





発表された研究内容を抜粋して紹介しますと、インドの Surjit Sing 先生からインドにおける川崎病の啓蒙の歴史、研究における近年の取り組み、世界保健機構（WHO）と共同の教育研究施設の運営についての発表が Yuki Lynn Takahashi Memorial Lecture として行われました。

近年の Artificial intelligence（AI）の発達から、AI と Bioinformatics（BI）を用いた研究が増えてきており、患者サブグループ／クラスターの同定や診断・管理アルゴリズムの開発、心血管リスクの予測に AI/BI を用いた研究が発表されていました。また、画像診断は被ばく量を少なくする方向にあり、冠動脈 CT には FFR-CT など付加評価が可能であることから冠動脈造影に代わって行われることが多くなり、また心筋虚血の評価としては薬剤・運動負荷心エコーや負荷 MRI perfusion などが、心筋シンチグラムの代わる検査として紹介されました。後遺症治療としては、薬剤相互効果のあるワルファリンに代わり、直接経口抗凝固薬（DOAC）を使用することを模索されております。

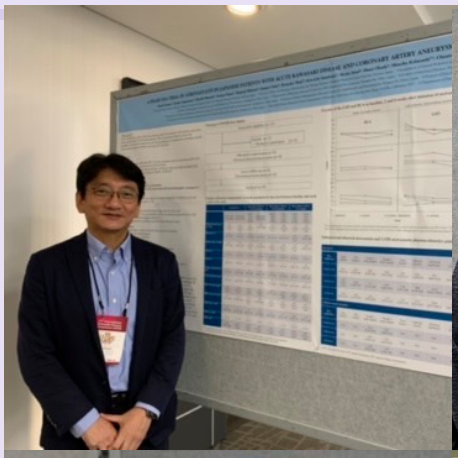
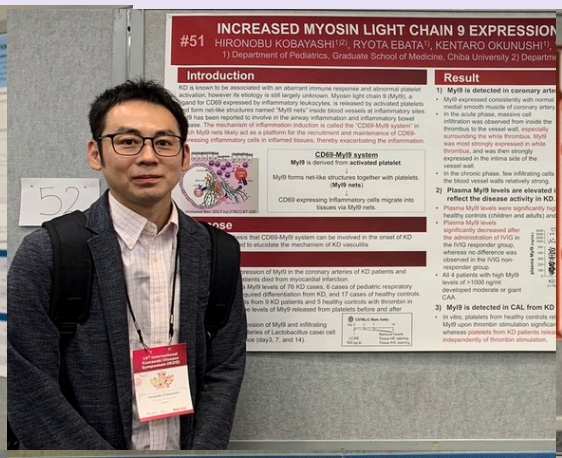
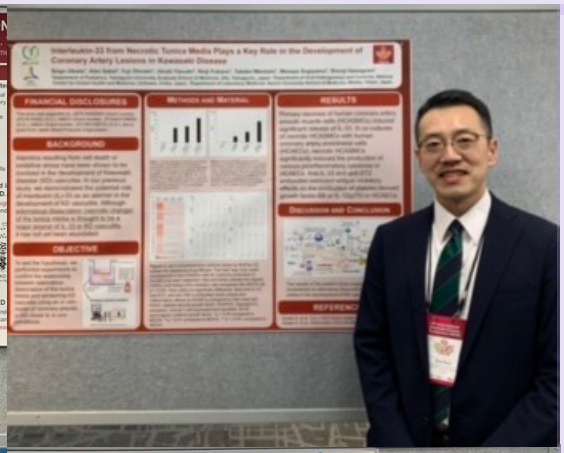
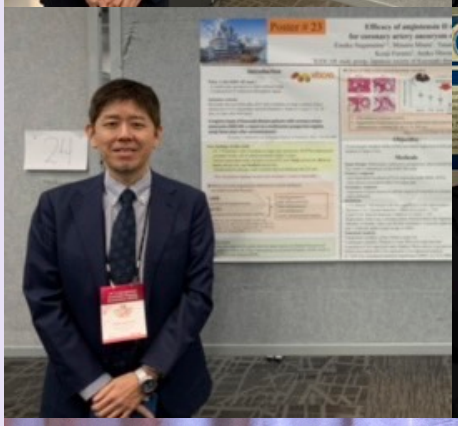
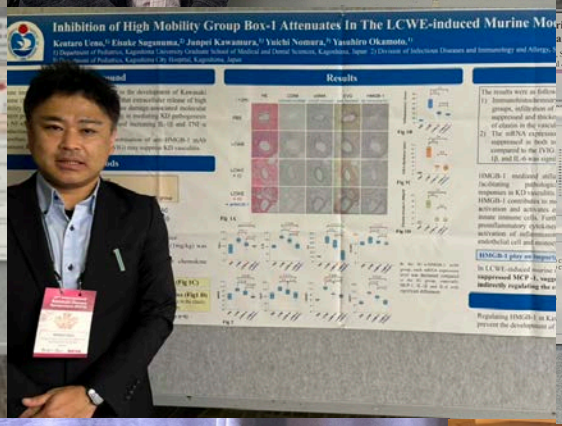
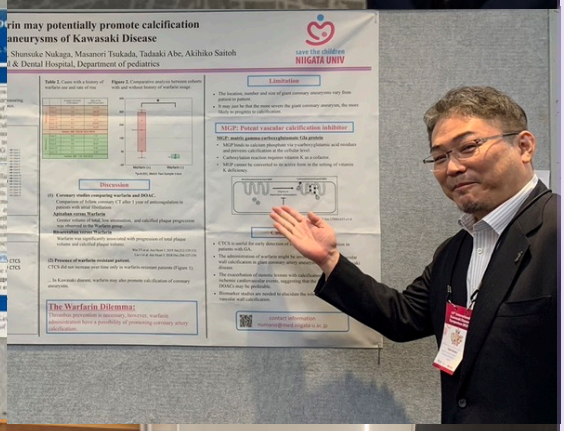
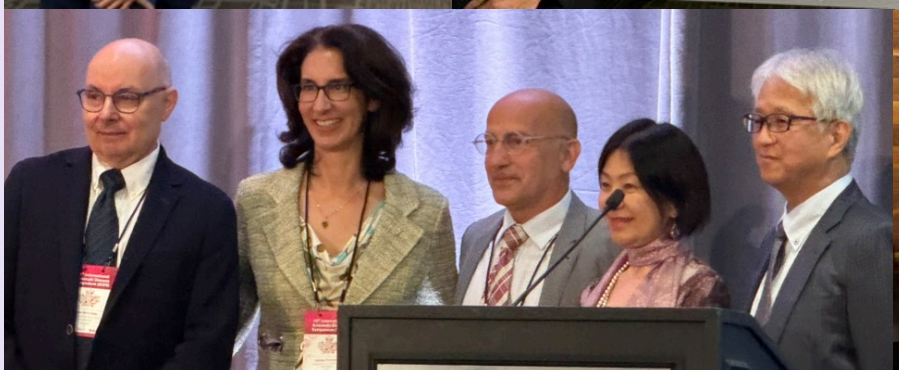
現在、中南米やアラブ諸国にも川崎病の研究グループが立ち上がり、全世界で研究の気運が高まってきております。今後の診療・研究を担う人材が世界各国から”Rising Star Award”として選ばれ、日本からは福岡赤十字病院の古野憲司先生が受賞されました。

今回の学会では、川崎病が世界的に周知・研究されてきたことから、川崎病診療・研究の国際機構、International Kawasaki Disease **S**ociety を立ち上げる議題もありました。

次回の第 15 回 IKDS は獨協医科大学埼玉医療センターの松原知代先生と、千葉大学公衆衛生学教室の尾内善広先生を会長として日本で開催されます。今後も日本がこの領域において世界でリードできるよう、次回の IKDS には多数の先生のご参加をお願い申し上げます。

（文責：沼野藤人）

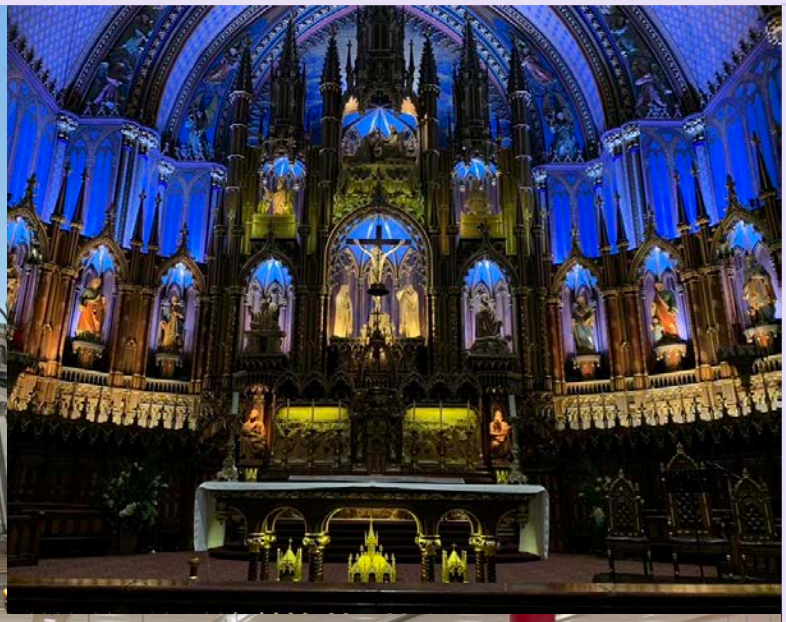
😀 IKDS の写真 😀



#51
INCREASED MYOSIN LIGHT CHAIN 9 EXPRESSION
Introduction
Result

BACKGROUND
METHODS AND MATERIAL
RESULTS
DISCUSSION AND CONCLUSION
OBJECTIVE


Inhibition of High Mobility Group Box-1 Attenuates In The LCWE-induced Murine
Results

NIIGATA UNIV
Limitation
Discussion
The Warfarin Dilemma:


14th International Kawasaki Disease Symposium (IKDS)
Remembering Dr. Kawasaki

Montreal,
Hotel Bona

14th International Kawasaki Disease Symposium (IKDS)
Montreal, Canada
Hotel Bonaventure
ikds.org



Sortie
Exit
Correspondances
Connections

第44回日本川崎病学会・学術集会

The 44th Annual Meeting of The Japanese Society of Kawasaki Disease

第 44 回日本川崎病学会・学術集会が 2024 年 10 月 4 日、5 日の 2 日間にわたり、一橋講堂にて開催されました。会長は 医療法人社団 福寿会 福寿会病院 小児科 深澤 隆治先生がお務めになりました。

深澤会長からの 学会テーマは、「これまで、そしてこれからの川崎病」です。

本学会・学術集会 HP にある会長挨拶文にもありますように“心合併症を有する症例の多くが成人年齢に達し、成人期の早期動脈硬化・急性冠動脈症候群との関係が現実的な問題となっており、循環器内科との連携が重要であり、これからの課題に対する解決策をじっくりと討議していきたい” という非常に重要かつ難しいテーマを掲げられました。

学会 1 日目

シンポジウム 1「今後の川崎病急性期治療： IVIG 代替療法の可能性」

座長：森 雅亮先生 （東京科学大学）高月 晋一先生（東邦大学医療センター大森病院）

はじめに森雅亮先生から、血管炎症候群における生物学的製剤の Keynote lecture がありました。特に IVIG + アナキンラ（IL-1 阻害剤）にて研究が進行中で、半減期が 6 時間と短く急性期治療に適しており、皮下注製剤であるが投与量が少なく、小児においても問題となる大きな合併症はないことなどの解説がありました。シンポジストの先生からは、IVIG 製剤不足時における各施設の様々な取り組み（ステロイドパルス療法、CsA 併用療法）や 、川崎病モデルに対する IL-1 阻害薬の効果、クラスタリング解析などの発表がありました。

第44回日本川崎病学会・学術集会

The 44th Annual Meeting of The Japanese Society of Kawasaki Disease

会長要望演題 1：治療前に冠動脈病変がすでにある症例の治療

座長：池田 和幸先生（京都府立医科大学）
小林 徹先生（国立成育医療研究センター）

川崎病診断時に冠動脈拡張を認めた症例への、IVIG＋ウリナスタチン併用治療した症例や、血漿交換が無効で IFX 投与を要した症例の報告のほか、治療前に冠動脈病変がすでにある症例の治療反応性と冠動脈予後を比較した研究（CAL あり群では群馬スコアは高く、不応例や後遺症が多い傾向があった）などが発表されました。

ランチョンセミナー1「冠動脈病変に応じた川崎病急性期治療」
座長：松原 知代先生（獨協医科大学埼玉医療センター）
演者：濱田 洋通先生（千葉大学大学院医学研究院）

ランチョンセミナー2「川崎病急性期治療におけるインフリキシマブ療法」
座長：伊藤 秀一先生（横浜市立大学大学院医学研究科）
演者：河邉 慎司先生（あいち小児保健医療総合センター）

シンポジウム 2 「PCI vs. CABG」
座長：三角 和雄先生 （千葉西総合病院）
丸山 雄二先生（日本医科大学付属病院）

はじめに座長のお二人から Keynote lecture がありました。三角和雄先生からは、川崎病冠動脈瘤への低侵襲な shock wave 治療などの PCI に関する話題、丸山雄二先生からは、川崎病若年成人に対する冠動脈バイパス術の長期成績についての解説がありました。

シンポジウム演者の先生からは、PCI（POBA 治療など）や CABG 治療などを行われた症例の報告があり、活発な議論が行われました。

第44回日本川崎病学会・学術集会

The 44th Annual Meeting of The Japanese Society of Kawasaki Disease

会長要望演題 2：治療に難渋した症例
座長： 須田 憲治先生（久留米大学医学部附属病院）津田 悦子先生（国立循環器病研究センター）

IVIG で解熱後に中等度以上の冠動脈瘤を合併症例報告、CsA 服用時の工夫、急性腹症を合併例、巨大瘤の血栓閉塞に対する CABG 治療後の再開通例といった症例報告がありました。

最後に、津田 悦子先生から 50 歳前後の川崎病既往患者に冠動脈バイパス手術された 4 症例についてのご報告がありました（石灰化は全例、LVEF 20%未満は 2 例）。

会長要望演題 3：心筋虚血の評価、冠動脈末梢循環障害の評価
座長：時田 祐吉先生（日本医科大学付属病院）
渡邉 誠先生（日本医科大学付属病院）

最初に、時田 祐吉先生から Keynote lecture がありました。INOCA（ischemia with non-obstructive coronary artery disease）の概念（狭心症を示唆する症状や所見を有するが、冠動脈に器質的有意狭窄を認めない冠攣縮と冠微小血管障害をきたすもの）などについて解説がありました。その後各施設より、アンモニア PET 検査を用いた末梢冠循環障害についての報告がありました。

学会 2 日目

シンポジウム 3：病因論

座長：伊藤 秀一先生（横浜市立大学大学院医学研究科）
松原 知代先生（獨協医科大学埼玉医療センター）

冒頭、伊藤秀一先生から Keynote lecture がありました。疾病的、また疫学的な特徴や、こどもを取り巻く環境の変化、エコチル研究におけるリスク因子の研究に関する話題についてお話がありました。

引き続き Moshe Arditi 先生から、Anne H Rowley 先生らの基礎的研究に関する報告を中心にお話がありました。シンポジストの先生からは、トルクテノ・ウイルスとの関連や エコチル調査（葉酸・重金属）に関する発表がありました。

第44回日本川崎病学会・学術集会
The 44th Annual Meeting of The Japanese Society of Kawasaki Disease

特別海外公演　座長：深澤 隆治先生（福寿会病院）
阿部 正徳先生（日本医科大学）

演者：Moshe Arditi 先生 (Cedars-Sinai Medical Center, USA)

「The central role of Interleukin-1 signaling in the Pathogenesis of Kawasaki disease: Path to Translation」

Moshe Arditi 先生から特別講演がありました。IL-1β、アナキンラに関する解説や、コルヒチンの LCWE 誘導血管炎に対する予防的作用、川崎病における血小板の役割など、興味深い研究結果についてお話しがありました。

ランチョンセミナー3

座長： 髙橋 啓先生（東邦大学医療センター大橋病院）
演者：渋谷 紀子先生（総合母子保健センター愛育クリニック）「川崎病発見前の川崎病」

ランチョンセミナー4

座長　三浦 大先生（東京都立小児総合医療センター）
演者　保科 隆之先生（福岡市立こども病院）
「川崎病の発症および治療反応性に対する微生物の関与 -ウイルス・細菌から腸内細菌叢まで-」

第44回日本川崎病学会・学術集会

The 44th Annual Meeting of The Japanese Society of Kawasaki Disease

川崎賞授賞式 及び 記念講演

受賞者：寺本芳樹（関西医科大学　小児科学講座）

「Dysbiosis of the gut microbiota as a susceptibility factor for Kawasaki disease」

掲載雑誌　Frontiers in Immunology

2023 Oct 31;14:1268453.

Dysbiosis が関与した川崎病における免疫異常の可能性についての研究が評価され、川崎賞を受賞されました。

本研究では急性期、回復期、その後の腸内細菌を便検体で解析し、炎症が惹起されやすい腸内環境である可能性が示されました。

シンポジウム 4：遠隔期の問題：動脈硬化、ACS

座長： 横井 宏佳先生（福岡山王病院）髙橋 啓先生（東邦大学医療センター大橋病院）

「Keynote Lecture」

川崎病冠動脈後遺症に対する冠動脈インターベンション

横井 宏佳先生（福岡山王病院）

川崎病遠隔期における冠動脈病変の病理

髙橋 啓先生（東邦大学医療センター大橋病院）

重症冠後遺症の入院治療を行った川崎病既往成人例の日本の実態

三谷 義英先生（三重大学医学部附属病院周産母子センター）

「DOACs in patients with giant coronary artery aneurysms after Kawasaki disease」

Kirsten B. Dummer 先生 (Rady Children's Hospital, USA)

シンポジストの先生からは、スタチンに関する研究が発表された（スタチンよる川崎病モデルマウスにおいて冠動脈狭窄抑制効果の報告・成人川崎病フォローにおける動脈硬化進展予防としてのスタチン治療）。

受賞者一覧

最優秀演題賞

東京都都立小児総合医療センター 臨床研究支援センター　赤星 祥伍先生

優秀演題賞

国立成育医療研究センター　安齋 豪人先生

京都大学大学院医学研究科薬剤疫学 矢内 貴憲先生

東邦大学医療センター大橋病院 病理診断科 浅川 奈々絵先生

岡山大学病院 小児科 平井 健太先生

最優秀 Case Report 賞 （急性期）

九州大学病院小児科 大賀 慎也先生

Case Report 賞 （急性期）

埼玉県立小児医療センター 感染免疫・アレルギー科 佐藤 法子先生

久留米大学医学部小児科 大津 生利衣先生

最優秀 Case Report 賞 （遠隔期）

日本医科大学小児科 松井 亮介先生

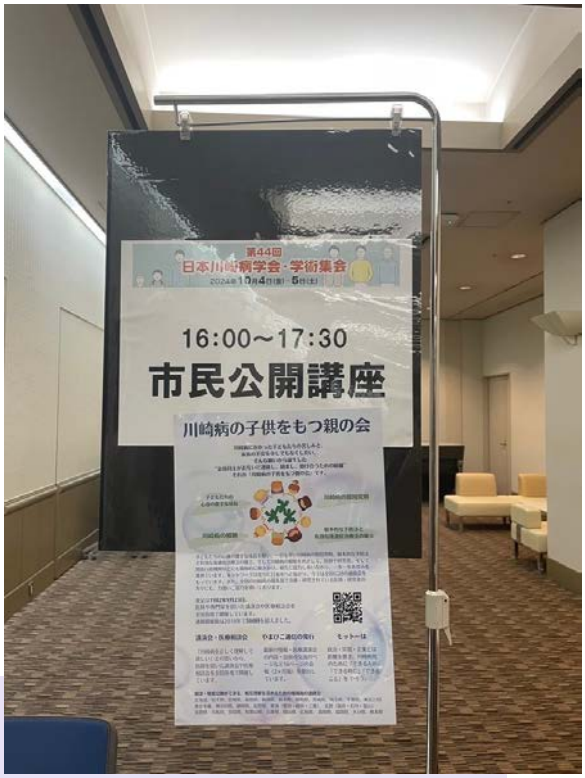
Case Repoert 賞 （遠隔期）

日本医科大学小児科 泉田 健介先生

北海道立子ども総合医療・療育センター 東谷 佳祐先生

第44回日本川崎病学会・学術集会

The 44th Annual Meeting of The Japanese Society of Kawasaki Disease



市民公開講座　共催：川崎病の子供をもつ親の会　協力：日本川崎病学会

「川崎病と診断されたら」「急性期における注意点」

演者：阿部 正徳先生（日本医科大学）

「遠隔期における注意点」

演者：深澤 隆治先生（福寿会病院）

第 45 回日本川崎病学会･学術集会 次期会長

会期：2025 年 10 月 17 日（金）･18 日（土）

会長：須田 憲治先生（久留米大学医学部附属病院）

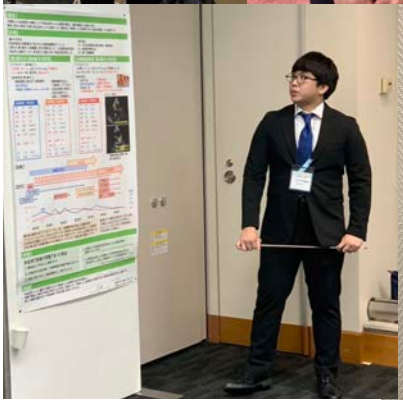
第44回日本川崎病学会・学術集会

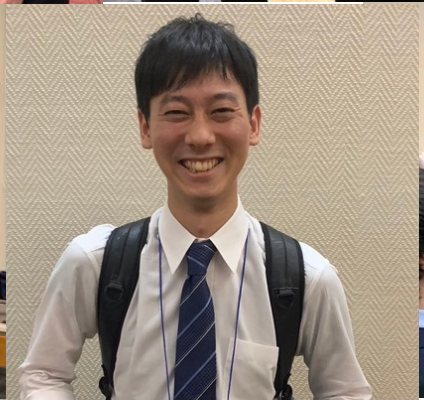
The 44th Annual Meeting of The Japanese Society of Kawasaki Disease

😀 日本川崎病学会・学術集会の写真😀

第44回日本川崎病学会・学術集会

The 44th Annual Meeting of The Japanese Society of Kawasaki Disease





編集後記

発刊が遅れましたこと、心よりお詫び申し上げます。 本号では 2 つの学会・学術集会の様子をご紹介いたしました。Newsletter を通じて本学会へのご興味をお持ちいただければ幸いです。次号もぜひご期待ください!!」